シリーズ 探訪 わが町文化財 その107

弥生時代の竪穴住居

吉備浄化センター（下津野地区）で、本年7月から下水道処理施設建設に伴う発掘調査を実施してきました。浄化センターの周辺は「旧吉備中学校校庭遺跡」と呼ばれる、弥生時代から室町時代にかけて集落が営まれていた場所です。これまでの下水道処理施設・地域交流センターなどの建設工事に伴う発掘調査で数多くの埋蔵文化財が発見されています。

この遺跡では、弥生時代後期（約2000年前）から人々が居住を始め、竪穴住居や有力者のお墓である方形周溝墓、近畿地方南部では初めての出土となる北部九州産の青銅鏡や新潟県糸魚川産のヒスイを用いた勾玉、ガラス玉や鉄の道具なども出土しています。遠隔地との交流を示す貴重な出土品の存在から、有田地方の拠点的な集落であったと考えられます。今回の調査でも新たに竪穴住居が2棟発見され、これまでの調査と合わせて30棟を確認しました。

上の写真は、弥生時代後期の竪穴住居跡です。竪穴住居とは、地面を掘りくぼめて床とした半地下式の住居で、近畿地方では縄文時代から奈良時代頃まで見られます。複数の柱を立てて骨組みを作り、屋根は茅などの草ぶきが多かったようですが、上部に土を積む事例もあります。最近の発掘調査の段階では確認できませんが、弥生時代には竪穴住居の周囲に土手のような堤が巡り、風や雨水対策が施されていました。壁際には小さな溝が巡っていますが、これは湿気を抜いたり、板壁を固定したりするための溝であったと考えられています。住居の中央には炉があり、火を焚いて暖を取ったり、調理したりしていたと考えられます。

発掘された竪穴住居跡（直径約８ｍ）

復元された弥生時代の竪穴住居
（滋賀県野洲市弥生の森公園）

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL https://www.town.aridagawa.lg.jp